

八代工業高等学校（全日制） 令和5年度（2023年度）学校評価表

<p>1 学校教育目標</p> <p>校訓「誠実」のもと、八代地域にある唯一の工業系学科の高校として、各種先端デジタル技術を習得し、新たな価値や技術革新を産み出す県産業界で活躍できる創造的エンジニアの育成を目指します。そのため、希望する進路実現に向け、実践的なキャリア教育を推進するとともに、県内企業等との連携・協働により、新たな価値を創出する「コトづくり」に必要な力や、DX社会に対応できる力を育む教育を目指します。</p>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p>令和5年度教育スローガン「考え・気づき・動く～自ら考えることが気づきにつながり、行動に一寸ずつの変化が生まれる。その積み重ねが成長へつながる。～」</p> <p>(1) 健全な心身の育成 (2) 学力の定着向上と進路実現に向けた取組の充実 (3) マイスター・ハイスクール事業の取組（完成年度） (4) 信頼される学校づくり (5) ICTの活用、校務整理と業務改善</p>
--

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	学校目標及び重点目標の共有	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標及び本年度の重点目標の周知徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標と重点目標を説明し、教職員は95%、生徒・保護者は80%以上の認知度を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議、全校集会、PTA総会、学年保護者会学校新聞等で本年度教育方針等の説明 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果は、職員が97.4%（前年比-2.6P）、生徒89.7%（前年比+2.0P）、保護者84.2%（前年比+1.3P）であった。PTA総会や学年の保護者会開催実施により保護者の理解等が進んだと考える。
	業務改善	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善意識の醸成 職員間の仕事上の連携 	<ul style="list-style-type: none"> 職員アンケートによる計画的な「校務の工夫と超過勤務削減への取組についてできている」を70%以上 教職員の月平均超過勤務時間を30時間以内 業務改善策の取組 	<ul style="list-style-type: none"> 業務改善の意見集約とやり甲斐のある職場環境づくり 科会及び部会、委員会等で、職員の帰属意識の向上 業務改善の検討と提案 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートの結果では、業務改善を意識して校務に取り組んでいるが65.3%（前年比-2.7）であった。・月平均超過勤務時間は36.35時間（12月まで）であり、目標は達成できていないものの、45時間以内であった。 また、ICT機器を活用した職員朝会や職員会議等の実施、アンケート等活用により業務の改善が進んだ。
	組織の運用と学校活性化	<ul style="list-style-type: none"> 入学希望者定員確保への更なる取組 	<ul style="list-style-type: none"> 職員による中学校訪問や中学生向けの説明会への出席 体験入学等の説明内容の工夫と充実 	<ul style="list-style-type: none"> 6月学校説明会 7月体験入学 11月進路状況報告 	A	<ul style="list-style-type: none"> 近隣中学校20校に出身者の在校生を参加させ、マイスター・ハイスクール事業の取組内容や学校生活について説明を行うなど工夫した。 体験入学では午前の部、午後の部併せて332名（前年度273名）の中学生の参加があった。
向学上力	生徒の学力向上	<ul style="list-style-type: none"> 自学の習慣化 	<ul style="list-style-type: none"> 1日1時間以上の自学 	<ul style="list-style-type: none"> 授業評価アンケートの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケート「自学に取り組んでいる」における「そう思う・ややそう

						思う」の回答率が62.7%（前年比約+17P）であったものの、その取り組みは十分ではないと教員、保護者も捉えている。資格・検定に向けた課題など家庭で行っていると感じられる。資格・検定への学習意欲を、教科の学習への自発性に結びつくよう指導に工夫を重ねる必要がある。
		・定期考査前の学習指導	・各学年の欠点者保持者数が10%未満	・成績不振者対象の期末考査前補習を実施、各部活動に考査前学習会実施を呼びかける	B	・学期末の考査1週間前から補習課外等を実施し対応することができた。
	教員の授業力向上	・授業見学の機会確保	・公開授業週間を年間で3回設定し、各1回以上見学	・教務部で立案し、学校全体で取り組む	A	・毎学期、計画実施することができた。他教科の授業・実習は新しい気づきになるとの感想・意見がある。
	工業分野に関する知識と技術の習得	・技能検定及び国家資格等への挑戦	・3年生の30%以上がジュニアマイスターシルバーの認定	・工業各科を中心に教務部、進路指導部及び学年が連携し指導機会の確保	B	・前期申請者数94（昨年130名）（後期は集計中）特別表彰3名（昨年16名）、昨年より減少したもののマイスター・ハイスクール事業をとおして新しい分野の資格取得に成果を上げている。
		・各種イベントへの参加及び各種大会での上位進出 ・地域と連携した「ものづくり」	・各種コンテストでの入賞こども科学フェアの継続実施 ・地域への貢献活動を各科1回実施	・大会出場者への指導及び学校広報活動を充実 ・地域のニーズに即した課題の設定及び研究を推進	A	・想像力、発想力、デザイン力につながるコンテストへは7回（昨年7回）参加し、つまようじタワーと鉄道模型は上位に進出した。また、地域の課題解決につながる研究活動では県大会の上位に入賞した。
キャリア教育（進路指導）	進路指導×ICTの加速度的推進	・進路活動におけるICT活用の充実	・ICTを活用した進路活動を全生徒が1回以上体験	・Chromebookを用いて活動を行う。	A	・進路希望調査をはじめ、企業視察等の事前学習にICT機器を活用した進路活動を行うことによって、各学科に適応した活動を実施することが出来た。
		・ICTを活用した資料作成や業務の効率化向上	・ICTを活用したデータ共有によるペーパーレス化を昨年度比80%以上達成	・学年会などChromebookを活用し情報の共有化を行う。	A	・3学年と進路指導部のGoogleクラスルームを作成し、企業情報等の情報共有に役立てることができた。
	主体的な進路選択の実現	・インターンシップ活動の改善と充実化	・事前の事業所研究および事後の紹介ポスター制作の実施	・インターンシップにおける本校のフレームワークの再構築	A	・マイスター・ハイスクール事業の企業実習で構築したフレームワークを活用し、インターンシップ実施を導入できた。
		・定期的なガイダンス実施による情報収集機会の充実	・進路ガイダンスおよび進路講話を年3回以上実施	・コロナ禍においても実施できるようオンラインベースで計画	A	・マイスター・ハイスクール事業による各学期1回の産業講話の実施及び希望参加のものも含め、7つのガイダンスに生徒たちが参加している。

生徒指導	問題行動、交通事故等の未然防止	<ul style="list-style-type: none"> ・特別指導及び一般指導件数 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な指導件数の昨年度比10%減少 ・携帯電話指導の昨年度比10%減少 ・個々に応じた特別な指導計画の作成と実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話安全教室、いじめ防止講座、薬物乱用防止教室の実施 ・毎朝の登校指導、日常的な生徒指導の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で登校指導を実施し、生徒に対して声掛けを行ったが、特別な指導については5件と昨年度より1件(+25%)増えた。 ・また、携帯電話等の指導についても生徒指導だよりの充実、安心安全メールでも配信を行ったが、1年生を中心に24件と昨年度に比べ2倍に増加した。 ・規範意識等の向上に向けて、計画的な生徒指導を実施し、早期対応に向けて取り組むことはできた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故発生件数 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故件数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全講話の実施 ・県内における交通安全情報の提供 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故は16件(前年比+1件)であった。近隣地域からの苦情もあり、自転車のマナーについて徹底指導していきたい。
	問題行動や悩みを持つ生徒への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒に応じたきめ細やかな支援や指導がなされているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を抱えた生徒の組織的な支援体制の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部会の定期開催 ・いじめアンケートの実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談部等と情報交換を密に行い課題を抱えた生徒に対して組織的に対応することができた。また、各学期いじめアンケートを実施し、いじめの早期発見につなげることができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談部との情報の共有、連携が取れているか 	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・SSW及びSC、教育相談や特別支援教育担当と連携 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を抱えている生徒をSC、SSWへ繋ぎ、カウンセリングを行うことで情緒の安定をもたらした。SSWや専門医療機関など含めた今後の対応や指導上の留意点などの情報共有を行うことができた。
人権教育の推進	研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・人権感覚が深まったか 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内・校外研修への参加 	<ul style="list-style-type: none"> ・校外研修日程の周知徹底と推進委員会での企画立案と実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・八代地区人権同和教育現地研修会などや、県人教八代大会へ多数の教職員が参加することができた。
	人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育活動にわたって人権教育を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育に係る、年間計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員でLHR指導案の原案作成 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2年生の水俣病を考える人権教育には、各クラスにおいてワークショップ等を実施するなど工夫をした。
			<ul style="list-style-type: none"> ・人権に係る講演会を実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権教育推進委員会での企画立案と実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・就職差別や教職員の人権感覚を磨くための研修を計画的に実施することができた。

	命を大切に する心を育む 教育	<ul style="list-style-type: none"> ・自他を尊重し、お互いを思いやる言葉や態度を育成できたか 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の悩みや不安を早期発見 ・コミュニケーションスキルの向上 ・いじめアンケートにおける、いじめや暴力を受けたことがある生徒数の減少 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談週間を学期ごとに実施 ・ソーシャルスキルトレーニング（SST）を継続実施 ・毎月の人権標語作成及びあいさつ運動の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・担任・副担任・学科の職員で、全ての生徒と面談を実施でき、長期休業中の生活の様子や今抱えている課題などについて知ることができた。また、forms等を用いてSC・SSWとの面談希望調査を実施することができた。・各学期に1回SSTを実施できた。1学期は入学時の仲間作りや多様な価値観の理解、クラス内で互いに認め合う関係作りについてキャリアコンサル20名を講師に招き実施できた。2学期「アサーション」、3学期「私の四面鏡」と自己肯定感や自己表現を考えるきっかけとなった。 ・共助委員によるあいさつ運動を毎月担当者を決めて実施した。・標語は共助委員会で応募し、優秀賞を受賞した標語を掲示した。
いじめの 防止等	いじめの未然 防止と適切な 対応	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの認知件数とその解決率の向上 ・いじめアンケート、スクールサインによる情報収集 	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめが起きた際の適切な対応（いじめ防止等対策委員会） ・いじめ等に関する情報共有の強化（職員間） 	<ul style="list-style-type: none"> ・本校いじめ防止基本方針に則り、いじめ根絶への取組実践 ・重大事態対応マニュアルの整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・情報集約担当者を設置し各学期のいじめアンケートやスクールサインからの情報及び担任からの情報などを職員間で共有し、いじめに対しての対応をほぼ迅速に進めることができた。
地域連携 (コミュニティー スクール等)	生徒・保護者・ 職員による地 域連携	<ul style="list-style-type: none"> ・総合型コミュニティースクールとして地域との連携体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営・教育活動教育課程の承認 ・スクール・ミッションの承認 ・避難所運営マニュアルの確認・改善 ・地域の課題への取組による地域活性化 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会の開催(年3回)による連携体制の確認 ・地域住民の視察による防災避難訓練の実施 ・やつしろまちなか美術館の取組 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会では学校運営への理解、地域課題の共有などができた。今後とも地域との連携体制を構築していきたい。・市役所の防災担当部署から専門的な意見をいただくことができた。今後は、地域と連携した防災訓練のあり方等についても検討していきたい。
	開かれた学校 づくりの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA活動の活性化 ・校内・外行事の連絡徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA各種委員会の活動を年間通して(3回以上)実施 ・学校行事の変更や追加について、迅速に対応し、保護者への連絡の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種委員長が企画を立案し、役員で協力し行事に取り組む ・HP、Mail等を活用した連絡の周知とFormsを活用した意見の集約 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習進路、生徒指導、広報の各委員会においては、年度当初の活動を実施することができたが、今後、文化体育委員会については活動を検討する必要がある。 ・保護者連絡は、複数の連絡ツールを使用したため、連絡の徹底はできたと思うが、その反面ツールの使用練度に差があると思われる。

特色ある学校づくり	<p>・マイスター・ハイスクールビジョンが目指す人材の育成</p> <p>マイスター・ハイスクール事業推進による学校活性化</p>	<p>・生徒・職員等への事業評価アンケートで「ある程度」が80%以上</p> <p>・生徒全員がデジタル技術関連の資格の取得</p> <p>・県内企業への就職割合60%</p>	<p>・産業実務家教員及び教師によるTT授業、実習(400時間)</p> <p>・企業、大学による学科毎の専門的出前授業</p> <p>・企業実習の実施</p> <p>・大学・企業視察の実施</p> <p>・産業講話の実施</p> <p>・カリキュラム刷新</p> <p>・エコシステム構築</p> <p>・八代市、地元との連携</p>	A	<p>・産業実務家教員から本校職員への授業移行、合同実習や合同授業等を中心にして約300時間の授業や実習、出前授業を行うことができた。また、職員向けの企業実習も実施し、知識や技術の向上につなげることができた。</p> <p>・企業実習は、昨年度の22社1校(72名)から41社1校(109名)に協力企業を増やし、一人ひとりがテーマを持ち、主体的に取り組むことができた。県内企業への就職率も約57%で、事業の成果がでている。</p>
	<p>資格取得と部活動による社会を逞しく生き抜く心身の育成</p>	<p>・朝は資格・検定に向けた学習会、放課後は部活動に励むメリハリのある学校生活</p> <p>・基礎基本を大切に、凡事徹底の実践</p>	<p>・各種コンテスト入賞(3位以内)</p> <p>・部活動各種大会入賞(ベスト8以上)</p> <p>・個々のレベルアップを図りつつ学校全体としての意欲高揚につなげる</p>	<p>・生徒、保護者、担当者との連携(信頼と協力)による指導強化</p> <p>・顧問の指導力向上(外部研修を含む)</p> <p>・リーダー研修会を実施し、生徒の自覚と自信を深め、学校の活性化に寄与する人材を育成</p> <p>・資格や大会内容の紹介及び合格や入賞結果の報告</p>	A
保健安全環境の管理	<p>校内環境整備の充実</p>	<p>・環境に対する責任ある行動を実践</p>	<p>・SDGsを考慮した学校版環境ISOへの取組</p> <p>・可燃ごみ削減</p> <p>・ペットボトル廃棄量の削減</p> <p>・環境系ボランティアへの積極参加</p>	B	<p>・ICT機器の活用等により紙ゴミは昨年度と比較し15%の減少。また、生徒会によるマイボトル運動でペットボトルゴミ等も昨年度より約20%減少した。</p> <p>・環境系ボランティアには、「八代海・浜辺の大掃除ボランティア」に約180名の生徒が参加することができた。身近な環境問題に触れるよい機会となった。今後はSDGsに係る取り組みを実施していきたい。</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・校内安全管理及び美化向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内安全点検の実施 ・美化コンクール等の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員及び生徒による校内安全点検の実施 ・生徒会による美化コンクールを年間2回以上実施 ・部活動生徒による清掃活動を年2回以上実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとの安全点検を実施し、校内安全の向上に努めている。美化コンクールは2回実施することができ、校内美化向上につながっている。部活動生徒による清掃活動は1回実施できた。
	心身ともに健康な学校生活の実現	<ul style="list-style-type: none"> ・健康診断結果等をもとにした日常的な健康管理の充実と健康 	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康に悩みを持つ生徒の早期発見と支援保健(病気予防対策等)啓発 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒、保護者、学校の連携徹底と生徒情報共有化、毎月保健だより発行、外部講師講話の実施 ・衛生委員会月1回開催 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の保健だよりは、生徒も身近な悩みや感染症の防止等を話題にて生徒たちにもわかりやすい内容を発行した。また、安心安全メール等も活用し生徒、保護者と情報の共有ができた。また、性教育講演会は全学年、衛生委員会は、月1回実施できた。
特別支援教育	特別支援教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・個に応じた指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な生徒の支援計画、指導計画を作成し、適切な支援の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・学科、学年と連携を図り全職員共通理解に基づく支援の実施 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・書類の作成や記入については協力的に作成してもらうことができた。普段の学校生活に生かせるように活用の方法は検討が必要である。
				<ul style="list-style-type: none"> ・家庭や専門機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、専門機関を通じた進路の対象者がおらず、連携は限定的だったが十分に対応することができた。
		<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がい、悩みのある生徒の情報の共有化と支援の実践 	<ul style="list-style-type: none"> ・科会や学年会からの情報を教育相談部で共有化し適時支援できる対応策の研究 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒理解研修の実施 ・SSWやSC等の活用及び専門家による校内職員研修の実施 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、生徒理解研修を実施し、学習面や身体面など課題を抱えた生徒について、情報を共有することができた。発達特性やSC・SSWと学校の連携について、職員研修を実施した。SC・SSWは、発達特性への正しい理解に向けた職員への助言、生徒面談や医療機関への受診同行など職員や保護者と連携して生徒支援を行っている

4 学校関係者評価

(1) 評価された点

- 生徒の進路保障として、就職内定率100%を継続して欲しい。卒業生などの体験談を話す機会も設けるなどの進路保障に取り組んで欲しい。
- 地域貢献に向けた学科の取組みを今後も引き続き充実させて欲しい。
- 防災教育等をとおして生徒に生きる力を身に付けさせて欲しい。
- マイスター・ハイスクール事業実施をとおした人材育成は学校の特色化・魅力化につながっている。

(2) 課題及び助言

- 入学希望者の増加に向けた取組の工夫。
- マイスター・ハイスクール事業の取組が指定終了後においても継承されるように努力して欲しい。

5 総合評価

- 全体的に昨年度と比べ自己評価は高くなっている。特に、業務改善においては、様々な業務において職員がICT機器を活用した取組みを実施し、業務の効率化につながっている。学校評価アンケートの結果でも意識改革が進んでいる。
- 産学官一体となった人材育成の取組みであるマイスター・ハイスクール事業については、工業科を中心に普通科教員も巻き込みながら事業3年目の取組みを力強く進めることができた。次年度以降に向けた各学科・学校の目標・人材育成像を明確にしつつある。
- コロナ禍において、保護者はじめ地域社会への情報発信が進まない面もあったが、学校公式Instagramや一新した学校ホームページ、学校案内パンフレットの刷新等の多くの取組みにより、令和5年度の入学生は昨年度に比べ増加している。
- 課題を抱える生徒が年々増加しているが、生徒指導部、教育相談、学科等の連携を強固にして組織として対応する事ができた。
- 生徒の学力向上については、自学に取り組む生徒の割合が昨年度に引き続き低く、ICT機器の活用も含め、全体的な学力向上と生徒の多様化に対応する個に応じた学習指導を充実させていく必要がある。

6 次年度への課題・改善方策

- 生徒及び保護者、全ての教職員がスクール・ミッション、学校目標を共有・理解し、カリキュラム・マネジメントを働かせた教育課程、日々の教育活動を実践していくための組織体制を整えていく。
- 多様化する生徒への丁寧な対応及び対応のための体制づくり。
- 令和6年度以降を見据えたマイスター・ハイスクール事業継続のための学校体制づくり。